

## 情報公開文書

|   |   |
|---|---|
| 研究課題名   | 尿路感染症に対して抗菌薬適正使用支援が与える臨床効果と薬剤耐性菌検出状況の検討   |
| 研究機関名   | 武蔵野赤十字病院  |
| 研究責任者   | 所属 感染管理室・薬剤部 氏名 加藤 智之   |
| 研究期間  | 承認日 ～ 2024年12月31日   |
| 研究の意義・目的  | 世界的な耐性菌の蔓延は我々人類の脅威となっています。2015年にWHOより薬剤耐性菌に対する計画策定が求められたことにより、2016年には日本でも薬剤耐性（AMR, Antimicrobial Resistance）対策アクションプランが決定されました。このアクションプランにおいて、薬剤耐性菌割合の減少や抗菌薬使用量の削減が成果指標とされています。大腸菌は様々な感染症の原因となりますが、特に膀胱炎などの尿路感染症が多いといわれています。その大腸菌の薬剤耐性化が世界中で問題となっており、特にレボフロキサシンなどのフルオロキノロン系抗菌薬の耐性化が危機的状況です。AMR対策アクションプランでもこのフルオロキノロン耐性大腸菌の耐性率の改善が成果指標とされています。外来で治療可能な膀胱炎の場合、抗菌薬で治療されますが、この抗菌薬の選択や処方状況を調査して、最適な抗菌薬選択を促すことによって得られるメリットを評価します。適切に治療がなされた上で、抗菌薬の使用量と大腸菌などの尿から培養・検出された微生物の薬剤耐性状況が改善し、AMR対策アクションプランの成果指標を達成することを目的としています。 |
| 研究の方法<br>(対象期間含む)   | 単施設での後方視的調査研究となります。2018年1月1日から2023年12月31日の間に、武蔵野赤十字病院にて、尿路感染症に対して尿培養を採取され、抗菌薬治療を行った患者さんです。<br>(対象期間：2018年1月1日～2023年12月31日)  |
| ①試料・情報の利用目的及び利用方法<br>(匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む)<br>②利用し、又は提供する試料・情報の項目<br>③利用するものの範囲<br>④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称 | ①臨床情報は匿名化された情報を管理・解析する。他機関への提供は行いません。<br>②患者背景に関する情報としては、年齢、性別、感染症名、であり、限定的な個人情報だけを扱うのみです。治療に関する情報として、a)細菌学的検査の提出有無とその内容、および検出菌とその薬剤感受性、b)基礎疾患、c)処方された抗微生物薬名と薬剤費用、用法用量、投与期間、抗微生物薬の選択理由、d)処方診療科、e)治療開始後の転帰、となります。<br>③臨床情報の利用は研究責任者、分担研究者、および研究補助者の計13名とします。<br>④情報の管理は研究責任者の加藤智之（下記参照）が行います。  |
| 問合せ先  | 当研究に自身の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ<br><br>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1<br>武蔵野赤十字病院<br>所属 感染管理室・薬剤部 氏名 加藤 智之<br><br>TEL：0422-32-3111（代表）6812（事務局内線）FAX：0422-32-3525   |